

中国人留学生の防災意識

山本真由美¹・徐曉せい²・張博²・村田 明広¹・西山 賢一¹
(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部¹)
(徳島大学大学院総合科学教育部地域科学専攻²)

1. 問題と目的

中央防災会議防災対策推進検討会議の下に2012年4月に設置された「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」において、南海トラフ巨大地震を対象として具体的な対策を進め、特に津波対策を中心として実行できる対策を速やかに強化していくことが重要との認識の下、当面取り組むべき対策等を取り纏めた中間報告が2012年7月19日に策定された。その中で最大クラスの地震は、発生頻度は極めて低いものの仮に発生すれば経済的な被害も甚大なものとなるが、耐震化等の防災・減災対策を講じれば、被害量は確実に減じることができるとされた。むしろ、巨大地震・津波が発生した際に起こり得る事象を冷静に受け止め、「正しく恐れる」ことが重要である。

徳島大学に受け入れている留学生(学部生と大学院生)は、2014年時点で184名である。彼らも巨大地震・津波が発生した際に起こり得る事象を冷静に受け止め、それへの予防が必要である。留学生のうち中国からの留学生は93名で50.5%で半数を占めている。

そこで、本報告では中国人留学生を対象に地震や津波災害についての知識、それらの災害から身を守るための知識、防災への準備状況などについて質問紙による意識調査を行ったので、報告する。

2. 方法

(1) 調査協力者

徳島大学で学んでいる中国人留学生50名を調査協力者とした。

(2) 調査方法

本報告者の大学院生が調査用紙を中国語で作成し、作成した調査用紙を報告者が調査協力者個

別に調査の目的を説明し、同意が得られた後、調査用紙を配付した。配付2～3日後に調査用紙を回収した。

(3) 調査項目

災害に関する知識、準備状態、避難場所などに加えて、性別、年齢、留学目的などのフェースシートを加えたものであった。

(4) 調査実施期間

2013年10月1日から10月15日であった。

3. 結果と考察

(1) 回収率

2013年の中国人留学生は学部生と大学院生を合わせて100名であった。そのうちの半数に配付したことになる。配付した中での回収率と有効回答率は共に100%であった。

(2) 男女比, 年齢比, 来日目的別比

1) 男女比

表1. 男女別人数内訳 (%)

性別	男性	女性
人数 (%)	30(60%)	20(40%)

男性の人数は女性の人数よりも多かった。

2) 年齢比

表2. 年齢別人数内訳 (%)

年齢	20歳代	30歳代
人数 (%)	39(78%)	11(22%)

20歳代が8割弱で、残りが30歳代であった。40歳以上はいなかった。

3) 来日目的別比

表3. 来日目的内訳 (%)

目的	勉強	仕事	その他
人数 (%)	44(88%)	5(10%)	1(2%)

来日した目的は、勉強がほとんどであった。

(3) 災害への意識

1) 日本での地震に対する安全感

日本での地震に対する安全感に対する意識を尋ねた結果を図1に示した。その結果、非常に「安全」と「安全」という回答が90%となった。安全感が高いと言える。

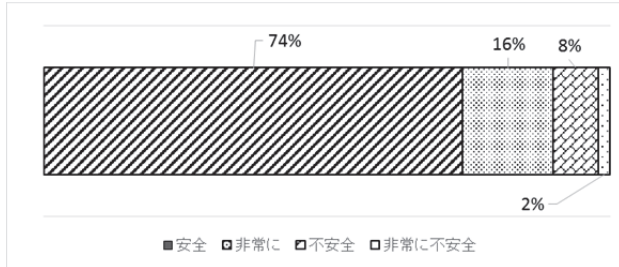


図1. 日本での地震への安全感

2) 地震の際、危険なこと

図2は、地震が起きた時に危険なことについて尋ねた結果である。その結果、「津波」が55.1%で最も高く、次いで「ビル倒壊」など建物の倒壊(20.5%)が危険であると認識しているようである。

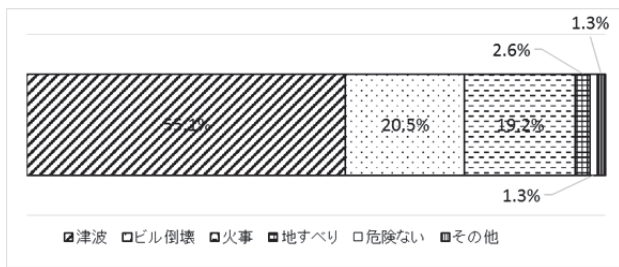


図2. 地震の際、危険なこと

3) 災害予測

図3は、日本に災害が来る可能性があることを知っているかを尋ねた結果である。「知っている」が72%であり、だいたい知っていると言える。

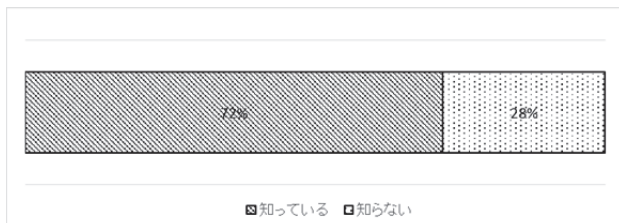


図3. 災害予測

(4) 防災への意識

1) 災害への準備

図4は、災害への準備の程度を尋ねた結果であ

る。「無準備」が64%で最も高かった。次に「準備している」が30%であった。災害があるかもしれないという予測をしているが、その備えはしていないという回答が半数以上である。

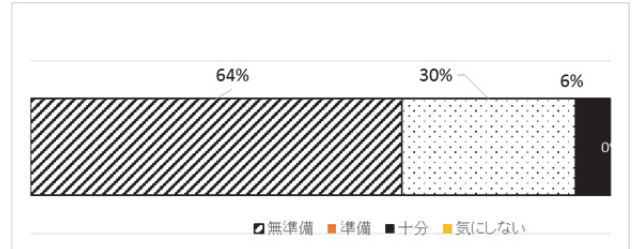


図4. 災害への備えの程度

2) 防災への関心度

図5は防災への関心度を尋ねた結果である。「時々関心を持つ」という回答が48%で最も高く、次が「常に関心がある」で28%であったが、「全く関心がない」という回答は24%であった。災害の可能性は意識していても、皆が常に防災を意識しているわけではないと言える。

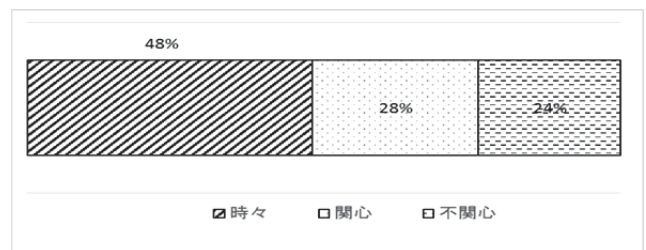


図5. 防災への関心度

4. まとめ

本報告は、留学生のうち最も人数比が高い中国人留学生を対象に災害や防災についての意識調査を実施した結果をまとめたものである。

中国人留学生達は災害があることはわかっている、それに伴う被害状態（津波や建物の倒壊など）もある程度予測できていると言える。だが、常にそれに関心を持ち、防災意識を高めておくことは難しいことと言える。学内でも環境防災センターを中心として防災対策マニュアルなどが作成されている。特に留学生に対しては、言葉での不利益等を被ることがない様、さまざまな組織が連携して、常に災害や防災への意識が一定に保たれるような取り組みが必要であると考えられる。